

船舶事故調査報告書

平成28年4月21日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	衝突
発生日時	平成27年10月29日 09時14分ごろ
発生場所	香川県高松市男木島西方沖 男木島灯台から真方位260° 4,350m付近 (概位 北緯34° 25.6′ 東経134° 00.8′)
事故の概要	ケミカルタンカーFINE CHEMIは、西南西進中、また、漁船播磨丸は、北北東進中、両船が衝突した。 FINE CHEMI は、船首部に擦過傷を生じ、また、播磨丸は、操舵室右舷部に凹損等を生じた。
事故調査の経過	平成27年10月30日、調査を担当する主管調査官（広島事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済み
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	A ケミカルタンカー FINE CHEMI（大韓民国籍）、1,307トン 8909977（IMO番号）、DONGNAM SHIPPING CO.,LTD. B 漁船 播磨丸、4.8トン KA3-21847（漁船登録番号）、個人所有
乗組員等に関する情報	A 船長A（大韓民国籍）、一級航海士免状（大韓民国発給） B 船長B、一級小型・特殊・特定
負傷者	なし
損傷	A 船首部に擦過傷 B 操舵室右舷部に凹損等
気象・海象	気象：天気 晴れ、風 なし、視界 良好 海象：波高 約0.5m
事故の経過	船長Aは、左舷船首方にB船を視認したものの、右舷船首方で操業する漁船に注意を向けながら西南西進を続けていたところ、B船が左舷船首方至近に接近していることに気づき、右舵を取ったが間に合わなかった。 船長Bは、船尾にあるネットローラの左舷後方に立ち、投網しながら北北東進を続けていた。 B船は、本事故時、漁ろうに従事している船舶を示す法定の黒色鼓形形象物を表示していた。
分析	A船は、船長Aが、右舷船首方で操業する漁船に注意を向け、見張りを適切に行っていなかったことから、B船が左舷船首方至近に接近していることに気付かなかったものと考えられる。 B船は、船長Bが、船尾で投網していて、見張りを行っていなかったことから、接近するA船に気付かなかったものと考えられる。

原因	本事故は、A船の船長Aが見張りを適切に行っておらず、また、B船の船長Bが見張りを行っていなかったため、両船が衝突したことにより発生したものと考えられる。
参考	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。 ・ 常時適切な見張りを行うこと。